

## 平成16年度実績評価 事務事業進行管理表

事務事業名	山本263号線整備事業(山本沖平の飯橋道路関連事業)				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	
部等名	建設部	課等名	国県関連事業課	内線	2760	1	8	2	3	13	11	
政策体系上の位置付け	政策	地域の魅力と快適さを高めるまちづくり			関連計画、条例等	全国総合開発計画 三遠南信自動車道整備事業計画(国土交通省)						
	施策	道路と交通の体系的な整備										
	基本事業											
事業区分	政策的事業	新規、継続区分	継続									
事業期間	H14年度～	H17年度	環境調整会議の必要性	あり								

## 【D0】(1)この事務事業は、次の目的を達成することを旨とします。

目的の記述	対象 (人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値 (実績・現状)			
	飯田南IC(仮称)を利用したい人 飯田南IC(仮称)の利用率(予測) 飯田南IC(仮称)を利用する際の利便性の向上(時間の短縮、安全性の向上(交通事故防止)) 供用後の利用者数 予測1110台/日(現状は450台/日) 三遠南信自動車道の整備・利用の促進	山本、伊賀良、三穂に居住する市民	山本、伊賀良、三穂居住者数	当初(15)	20425	17年度
飯田南IC(仮称)を利用したい人		飯田南IC(仮称)の利用率(予測)	16年度	20425		
			当初(15)	0	17年度	0
			16年度	0		
成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位		成果指標の数値 (実績・目標)	当初実績(15)	5	最終目標	
到達時間		5.0分 1.5分 = 3.5分	16目標	5	16実績	5
		17目標	5			
	農協交差点の事故件数(平成14年度16件)	当初実績(15)	16	最終目標		
		16目標	16	16実績	16	
		17目標	16			

## (2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
		三遠南信自動車道の飯田南IC(仮称)へアクセスする市道の新設整備。(ICの北側で平面交差を可能とすることによって、利用の利便性を向上させる) 総延長L=750m、全幅員W=9.25m(うち歩道W=2.5m)	用地買収 道路工事 L=563.0m	事業費ベースの進捗率%
道路工事 L=280.0m 17年度完了予定			事業費ベースの進捗率%	100

<金額の単位:千円>		16予算額	16決算額	17予算額
事業費	特定			
	国庫支出金	88,000	88,000	33,000
	県支出金			
	起債	41,400	41,400	
	その他			
	一般財源	76,600	76,600	27,000
	事業費計(A)	206,000	206,000	60,000
人件費	正規職員所要時間	1,200	1,200	1,200
	臨時職員等所要時間	100	100	100
	人件費計(B)	4,336	4,336	4,336
	トータルコスト A+B	210,336	210,336	64,336

特定財源内訳	地方道路交付金事業 交付金(国)	55%
	地方特定道路整備事業 起債	90%

## (3)この事業目的の達成は、次の上位(政策や基本事業)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 (この事務事業の上位目的)	上位成果指標(例:施策の成果指標)と単位	上位成果指標の数値			
	三遠南信自動車道の整備・利用の促進。 地域間の交流が盛んになり、地域が活性化 する。 学童の安全な通学が確保できる。	IC供用後、自動車道及びICを利用して利便性が 向上したと感じる市民の割合	16目標	0	16実績	0
17目標			0			
16目標				16実績		
17目標						

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
地元要望があり、バイパスに平面接続できる市道がなかったため、飯田南IC(仮称)へのアクセス計画に基づき開始。	事業に対し地元関係者が協力的であり早期供用を望んでいる。	山本地区で三遠南信自動車道に関する要望の中で強く要望されている。山本地区対策委員会の事業要望72項目の上位に位置付いている。

【 See (16年度の事業評価) 】

目的 妥当性 評価	意図の達成が、結果に結びつくか	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果(達成度)を向上させる余地はあるか?	(評価) 余地がない (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性は?	(評価) 必要性がない (その理由) 飯田南IC(仮称)供用後、ICへアクセスでき、三遠南信自動車道、中央自動車道の利便性が向上する。		廃止・休止した場合の影響は?	(評価) 影響あり (その理由) 飯田南IC(仮称)が供用しても利用対象者に不便が生じる。農協前交差点の事故、通学路の事故の増加が予想される。
	意図の見直しの必要性は?	(評価) 必要性がない (その理由) 三遠南信自動車道の計画に変更がない限り必要ない。		類似事業の有無と統合の可能性(市以外の取組も含む)	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由) 三遠南信自動車道へのアクセスを高めるための道路整備としては川路177号線があり、三穂の人の一部はそちらを使う可能性がある。川路177号線と利用者が異なる(ICが違う)ため、統合は不可能である。
	市が関与する必要性は?	(評価) 必要ある (その理由) 国、県との調整、今後の国道153飯田南バイパスの計画と合わせ市で整備する必要がある。		効率性 評価 成果を下げずに、事業費・人件費の削減は?	(評価) 可能 (その理由) (事業費) 再生資源を積極的に利用する。また、市以外の組織から再生資源の情報収集に努める。 (人件費) 委託した場合とコストの比較が必要だが事業規模が小さく、コストアップとなる可能性が高い。
			公平性 評価 受益者は誰か?負担の是非、程度は受当か?	(評価) 受当である (その理由) 生活道路もかねており、そこだけを有料化するということはありません。	

【 Plan(改革改善案) 】

今後の事業の方向性	事業の方向性の具体化 (何を、いつまでにどうするか)の改革改善案	改革改善案実施の課題と克服方法
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	建設副産物の再利用の推進等により、コスト縮減に努める。	(課題) 情報収集。 再生資源の発生状況の情報、安価な再生資源利用製品の情報。 (克服方法) 国、県、庁内他部署との情報交換及び調整。